

WESTIMES

高校生と姫路市議会との座談会に参加しました

令和5年12月26日に行われた、高校生と姫路市議会との座談会に出席しました。4人ずつ2チームに分かれ、それぞれ違う内容で姫路市の市議会議員の方々と意見交換を行いました。それでは各チームがどのような議題で話したのか、報告と共にご覧ください。

議題：男女共同参画の推進

～ジェンダーギャップを解消するには～

僕たちは、ジェンダーギャップの解消をテーマに、高校生から見た姫路市の現状や今後の取り組みについて姫路市議会厚生委員会の方々と意見交流。僕たちのチームは、事前にジェンダーギャップの現状と解決についてまとめた意見を議員の方々にお伝えしました。ここでは、その提案を紹介したいと思います。

まず僕たちは、ジェンダーギャップ問題の現状を調べました。すると、日本では「社会参加」、特に政治分野において、世界でも最低水準となっていることがわかりました。姫路市議会でも女性議員の数は近年増加しているようですが、平等には程遠いのが現実です。しかし、市政は市民の様々な声を反映しなければなりませんから、議会の性格差改善は喫緊の課題です。実際にお話をしてくださった議員さんの中にも、おむつ交換台の不足など、いままでの男性主体の議会では上がらなかった声が届くようになっていて、と仰っていました。

そんなジェンダーギャップ問題について、全く知らない人はほとんどいないはずなのに、改善は遅れている。この原因は議会や市政の取り組みがうまく伝わっておらず、市民にとって遠い問題になってしまっていることにある、と考えた僕たちは、「施策の見える化」を提案しました。

姫路市は「あいめっせ」を中心に幅広い活動を行っていますが、その活動を知っている市民は多くありません。姫路市の取り組みを市民に知ってもらうことが、市民に近い問題であると気づいてもらう第一歩になる、という発想です。

このような僕たち高校生の意見を、議員のみなさんは熱心に聞き入ってくださり、実際の取り組みや議会としても問題視していることなどを話してくださいました。

真剣な話し合いだけでなく、他愛のない雑談なども交えて座談会を進めて下さった議員さん方の姿を見て、ジェンダーギャップ問題だけでなく、市議会にも興味と信頼がわいてくる良い機会になりました。WESTIMESを読んでくださったみなさんも、ぜひ自分で調べ、自身の意見を持って下さい。(白井佑弥)

議題：滞在型観光に向けた政策

～もっと姫路に滞在してもらうには～

私たちは、姫路市の観光政策について市議会の方々と意見交換をさせていただきました。

現在、姫路市は「観光客が姫路城だけを見てそのまま別の観光地に移動してしまう」という、観光客の滞在時間が非常に短いことが課題となっています。

そこで私たちは、オープンデータの4つのグラフを基に、姫路市の観光の課題についてさらに深く掘り下げ、ある提案を行いました。

それは「姫路市で食べ歩きを活性化させよう」というものです。食べ歩きマップを作ることや、クーポンの配信など、普段こんなのがあったらいいのにな、と感じていたことについて市議会の方々に伝えることができました。

また、市議会の方々も発言しやすい雰囲気を作ってください、気後れすることなく自由に発言させていただきました。市議会の方々から私たちの提案に対して意見をいただいたり、私たちへ質問をされたりと、双方にとって、とても有意義な2時間となったと思います。時間が過ぎるのがとても速く感じました。市議会の方々の優しいアットホームな雰囲気がとてもいいなと感じました。

2週間ほど前から準備を始め、まず私たちの中で意見交換をしたり、自分たちの意見をより伝わりやすくするために、スライドを作成したりしました。今までの人生の中で、一番姫路について考えた2週間になったと思います。

今回の座談会を通して、姫路市について具体的に考えることで、もっと姫路市が好きになりました！私たちの思いを市議会の方々に直接届けることができるという、普段はなかなか経験することのできない経験をさせていただいたことに感謝しています。私たちの意見が、これからの姫路市の発展に少しでも貢献できていればとても嬉しいです。(中井心優)



↑議会の中に実際に入らせていただきました！